名簿刊行に寄せて

上田部会長　佐　藤　　毅

事務局から、名簿を新しくしたいので、上田部会（郷里部会）でも何か書いて欲しいとのご要望がありました。名簿であれ、他の印刷物であれ、冊子にまとめるということは、原稿募集から始まり、編集・版下作成・印刷・製本までと、大変な苦労を要します。先ず、関係者の方々のご苦労に敬意と感謝申し上げ、上田部会のここ数年の歩みを紹介したいと思います。

実質的な郷里部会を上田部会と称していますのは、東京部会に所属している皆さんにとって、上田は郷里であり、上田郷友会創立以来、郷里部会と称されてきました。

しかし、現に上田に居住し、上田地域で例会を行なったり、他の各種団体との関わりを持つ場合、郷里部会と称するのにはいろいろな面で不都合な場合もあります。そこで、実質的な郷里部会を上田部会と称しているわけです。

いま、手元には、戦後間もない昭和21年3月発刊の、紙質の悪い色褪せた薄い名簿をはじめ9部の名簿があり、時の流れを偲ばせます。

私が前任の丸山寿先生からバトンタッチを受けてから4年目になります。丸山寿先生が生前申されたのに、昭和40年ころ、上田部会の活動が大変低調となり、或る会合の席で、出席者の一人の方が「この会（郷里部会のこと）も皆死んでしまえばおしまいさ」と述べたとのことです。そこで、丸山寿先生は、「日本一の歴史と伝統のあるこの上田郷友会をおしまいにすることはできない」と反発、幸いにも理解ある他の先生から激励され、一枚のビラ配りから始まり、著名な先生方の講演会を実施することにより、一人二人と懸命な努力を重ねられ、今日の上田部会の基礎を固められました。

昭和40年ころ、70歳ころから活動を開始してから20年間、年令も90歳を迎え、これを契機に後進に道を譲りたいと考えられました。幸いにも先生の意に適った相応しい方があり、後任としてお願いできることになり、先生も私ども会員もほっとしました。ところがどのような事情なのか、この件は立ち消えとなり、先生始め私どももがっかりし、話は振り出しへ戻ることになりました。そこで仕方なく先生にもう一年ご苦労いただくことになり、微力ながら私がお手伝いすることになりました。一年が経過、後事を私に託されるお話をいただきましたが、多数諸先輩も居られる中、元より非才な私はお断わり申し上げましたが、再三のご依頼があり、私は何人かの先輩や友人の方々にご相談申し上げましたところ、お引き受けしろとのご助言とお励ましをいただき、結果としてお受けすることになりました。

就任以来、会員の増強と会費の確保を重点に、充実した会の運営に努め、毎月の例会をはじめ、会員相互の親睦と啓発を高めるための研修旅行の実施、さらには部会報の発行等に会の基盤を整えつつ、220余名の会員の皆様に支えられつつ、113年の歴史と伝統、加えて品格のある上田郷友会と郷里部会の発展のため精一杯の努力を続けております。

どうか東京部会の皆様も郷里部会である上田部会に、絶大なご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

新しい名簿の発刊に当たり、些かの所感を申し述べ、上田郷友会の益々の発展と全会員の皆様のご健勝をご祈念申し上げます。

（平成10年3月記）